

技能評価システム移転促進事業(SESPP)は日本式技能評価のノウハウを移転するため、ベトナム、カンボジア、インドネシア、ラオスを対象に日本の専門家によるセミナーや技能評価トライアルを実施しています。事業の運営事務局を株式会社 J T B 霞が関事業部にて受託しております。日本式の技能評価の活用促進が図れるよう、J-Skills Newsでは、事業の取組などをお知らせしています。(年3回発行)

□インドネシア・カンボジア・ベトナムで2025年度現地事業評価を実施

SESPP事業の効果的・効率的な実施を図るため、対象国における技能労働者のニーズの把握、広報手法や取組職種・等級の検証、中長期的課題の把握等を行うことを目的として、活動対象国であるインドネシアと1月22日(木)、カンボジアと2月9日(月)、ベトナムと2月10日(火)に官民合同委員会が開催されました。参加メンバーは各国政府人材開発部局、現地職業訓練施設、厚生労働省、SESPP事務局及びその他本事業に関係する者で構成され、当年度事業の実施状況や成果、次年度実施に向けた提案、意見交換等が行われました。

■インドネシア

（日時 参加者	2026年1月22日(木) インドネシア時間9:00-12:00 国家職業資格認証機構(BNSP)、金属・機械加工分野試験協会(LSP-LMI)、インドネシア金型工業会(IMDIA)、在インドネシア日本大使館、厚生労働省、SESPP事務局及びその他関係者
参加者数	25人
本年度の 実施内容	技能検定 ・平面研削盤作業2級 技能評価者講習(SAT)、技能評価トライアル(SET)
次年度の職種に 係る提案内容	・事業の最終目標：技能評価システム（技能競技大会・技能検定）を構築することにより、技能労働者の育成及び能力向上を図る。 技能検定 ・目標：技能検定の定着及び実施職種のレベルアップ ・活動：2025年までの事業のフォローアップ（技能評価者講習、技能評価トライアル）、新たな職種への取組 職種案：2025年度までの事業のフォローアップ（平面研削盤作業2級SET又は金属プレス2級 SAT/SET）、新たな職種への取組
今後の取り組みに 向けた意見交換	・5軸マシニングセンタ、メカトロニクス、CAD/CAM等、11職種を新たに実施したい。(IMDIA) ・ものづくりの現場では、ロボット溶接のニーズが高く、同職種の支援を希望する。(LSP-LMI) ・本年度実施した平面研削盤作業は、累計で3級:50名が受検、39名合格、2級:16名受検、11名合格、1級は2012年度に1回だけ実施し、2名受検、1名が合格となった。(IMDIA) ・IMDIAが実施した国家技能検定は累計で4,298名が受検し、2,554名が合格している。課題として、評価者が不足しており、増やすための取組が必要である。(IMDIA)



インドネシア官民合同委員会



カンボジア官民合同委員会



ベトナム官民合同委員会

■カンボジア

日時 参加者	2026年2月9日(月) カンボジア時間9:00-12:00 労働・職業訓練省(MoLVT)、厚生労働省、JICA専門家、NPIC、NTTI、PPI、ITI、日本カンボジアデジタル化製造業センター(CJDM)、SESPP事務局
参加者数	29人
本年度の実施内容	技能競技大会セミナー ・情報ネットワーク施工 技能検定 ・機械検査2級 技能評価技法研修(SEM)、技能評価者講習(SAT)
次年度の職種に係る提案内容	・事業の目標：技能評価システムを構築することにより、技能労働者の育成及び能力向上を図る。 技能検定 ・目標：技能検定の定着及び実施職種のレベルアップ ・活動：2025年度事業のフォローアップ（技能評価トライアル、セミナー）、新たな職種への取組 職種案：機械検査2級技能評価トライアル/その他の職種のセミナー
今後の取り組みに向けた意見交換	・SESPPで支援した3職種への国家技能検定の取組みは、双方の評価方式が異なるので、自国に合った形にアレンジして、取り入れてもらいたい。支援した内容をカンボジア側は、コンピテンシー評価方式の中で、ユニットとして取り入れていく必要がある。(SESPP事務局) ・SESPPで育成された評価者は、習得した知見を各訓練校でのカリキュラム開発、試験問題の作成・運営、授業等で活かしている。(ITI、NPIC、NTTI、PPI) ・カンボジアからは、メカトロニクス、デジタルコンストラクション、業務用ITソフトウェア・ソリューションズ、電気設備、ビルディングインフォメーションモデリング、電気系保全1級、CNCマシニング、冷凍空調機器施工、産業用ロボット、溶接、農業関連での技能等の支援の要望が挙げられた。日本で実施している職種を確認し、検討していくこととした。(カンボジア各者、厚生労働省)

■ベトナム

日時 参加者	2026年2月10日(火) ベトナム時間9:30-11:45 サイゴンハイテクパーク訓練センター(SHTP-TC)、厚生労働省、企業(日系、現地)、認定評価者、研修受講者、トライアル合格者、SESPP事務局
参加者数	36人
本年度の実施内容	技能検定 《南部(ホーチミン)》 ・機械検査2級 技能評価トライアル(SET)、技能評価者認定(SAC) ・機械製図CAD作業3級 技能評価者講習(SAT)、技能評価トライアル(SET) ・シーケンス制御2級 技能評価トライアル(SET)
次年度の職種に係る提案内容	・事業の目標：技能評価システムを構築することにより、技能労働者の育成及び能力向上を図る。 技能検定 ・目標：技能検定の定着及び実施職種のレベルアップ ・活動：2025年までの事業のフォローアップ（技能評価トライアル、セミナー）、新たな職種への取組 職種案：機械製図CAD作業3級SET、シーケンス制御2級SET/SAC、新たな職種への取組
今後の取り組みに向けた意見交換	・ベトナム南部地域でのSESPP事業の支援は2018年度より開始され、本年度で8年目となる。政府間での事業の推進が滞っているが、南部地域で民間検定とし事業を継続出来ていることは、大変喜ばしいことである。その成果として多くの評価者が誕生している。(SHTP-TC) ・東部国際大学、Hong Bang国際大学からは、機材、設備を有しているので、研修の実施に当たっては、是非協力したいのと申し出があった。 ・SETを受検する場合の事前訓練は大変重要である。普段の職場とは異なる環境での受検となるため、事前の練習を行うことは、受検時により成果を出せるばかりでなく、その後の自身の仕事にも必ず役に立つので是非実施してほしい。(厚生労働省)

□研修レポート

■インドネシアにおける平面研削盤作業2級の技能評価者講習(SAT)、技能評価トライアル(SET)

2026年1月5日(月)～1月9日(金)に平面研削盤作業2級の技能評価者講習(SAT)及び技能評価トライアル(SET)が、松下グローバル財団(YMG)のハイテク金型訓練センター(HMTC)にて実施されました。平面研削盤作業2級は2017年度に実施しましたが、現在、評価者が足りず、インドネシア側からの評価者育成の要望を受けて、再度実施することとなりました。

SATの受講者は7名、SETの評価者は7名、受検者は4名で、内1名の合格者が出ました。

SATではまず、評価者の役割と責務、事前準備、実技試験実施運営上の留意点、2級課題の加工手順等を講師から学んだうえで、評価者役と受検者役に分かれての役割演習を行い、実際の技能検定試験の実施方法を学びました。SETでは、研修4日目に実技試験を午前・午後各2名が受検し、5日目に測定・採点、作業態度採点、作業時間採点を取りまとめ、試験結果表の作成を行いました。

講師の吉江和幸氏(セイコーエプソン株式会社)からは、『受講者の評価者としての取り組み姿勢は、受検者への接し方やその対応等についても、公正で公平な運営を心掛け、適正な評価を行うという意識も高く、評価者同士で話し合い、教え合う事も出来ていた。SET受検者は機械台数と日程の制約から4名の受検となり、合格者は1名であった。SET前には受検者向けの事前訓練が、学科2日、実技3日、模擬試験1日の合計6日間実施されたとのことである。今後は実技試験の練習時間を増やす事を検討してもらい、合格率を上げていってほしい。』との講評をいただきました。

受講者からは、『研削加工分野の専門性を高め、インドネシアの製造業を発展させたい。』『動画や画像を使った教材の提供があると良い』等の意見が寄せられました。



専門家による講義風景



技能評価トライアル(実技試験)風景

■ベトナムにおけるシーケンス制御2級の技能評価トライアル(SET)

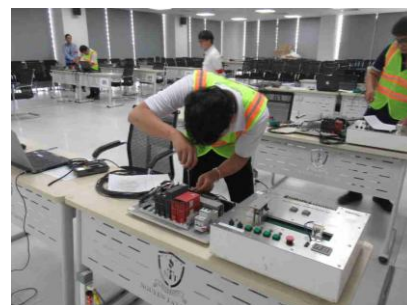
2026年1月19日(月)～1月23日(金)にシーケンス制御2級の技能評価トライアル(SET)が、グエンタットティン大学(NTTU)にて実施されました。

SETの評価者10名、受検者は8名で、内4名の合格者が出ました。研修1日目と2日目は模擬試験実施のための留意点の確認、準備設営、3日目に学科試験・実技試験を実施、4日目に採点・試験結果表の作成を行った後、講師からの解説がありました。5日目は講師からの解説と演習課題への取り組みを通して、技能検定運営能力の向上に努めました。講師の清野政文氏(職業能力開発総合大学校 特定准教授)からは、『今回は、研修のための資料作成に時間をかけたことで、思うように研修が進められた。昨年も受講した人は、SETの準備、実施を進める手順を把握しており、とても円滑に研修を実施できた。初めての受講者も電気的な知識、経験のある人たちで、講習の遅延は全く感じることはなかった。』との講評をいただきました。

今回のSETの中では、認定評価者となるための要件である技能評価者講習(SAT)未受講者に向けてSAT補講を行い、新たに3名が認定評価者候補となることが出来ました。事業が継続された場合、次年度の認定評価者の誕生が期待されます。



専門家による指導風景



技能評価トライアル(実技試験)風景

■カンボジアにおける機械検査2級の技能評価技法研修(SEM)、技能評価者講習(SAT)

昨年度3級の認定評価者が11名誕生した機械検査は、本年度より2級を実施し、12月と2月の2回に分けて2種類のセミナーをカンボジア国立ポリテク大学(NPIC)にて実施しました。

まず2025年12月15日(月)～12月19日(金)に技能評価技法研修(SEM)が実施され、16名が受講し、14名が修了しました。

日本の技能検定制度の概要、職種概念、作業要素一覧、基準と細目等を解説し、受講者に試験問題作成能力を身につけてもらうことを目的として実施しました。

機械検査の基準と細目に基づいて学科試験問題の作成方法の講義の後、2名1組の7グループに分かれて学科試験問題の作成演習を行い、その内容を全員で検討しました。

講師の稲川文夫氏(SESPP事務局技術顧問)から、『一部修正を加えることで、学科試験問題として使用できる問題が約6割を占め、学科試験問題の作成能力が一定レベル達成されたと感じた。』、『ものづくり企業の現場で重要視されている、品質管理に関する問題、QCの7つ道具、管理図等の知識が十分ではなかった。技能者、技術者にとっては必須の知識であるため、ウェブサイトの資料や入門書籍から学習するよう促した』、『機械検査2級実技試験の計画立案等作業試験の問題の中には、三角関数やピタゴラスの定理を用いて幾何数学の問題を解法するものがあるが、これらも受講者にとっては難しいようであった』との講評がありました。

続いての技能評価者講習(SAT)は、2026年2月2日(月)～6日(金)にかけて実施され、14名が受講し、14名全員が修了しました。

評価者の役割と責務、実技試験実施方法・運営上の留意点等の講義の後、評価者役と受検者役に分かれての役割演習を実施し、検定試験の運営方法や採点・試験結果とりまとめを経験しました。

講師の稲川文夫氏(SESPP事務局技術顧問)から、『2級実技試験(製作等作業試験)課題では、ハイトゲージによる測定と歯厚マイクロメータによる平歯車のマタギ歯厚測定が新しい課題として追加されるが、特にマタギ歯厚測定への理解が難しいようであった。』、『精密測定を行う上で、測定器の保守管理は非常に重要なことであるが、測定器の保全状況は極めて悪く、錆が発生しているブロックゲージやマイクロメータのスピンドルが散見された。測定器は使った後、必ず汚れをふき取って保管することを習慣化することを指導した。』との講評がありました。

受講者からは両セミナーを通して、『本研修は測定技術の習得に非常に有用であり、もっと練習したい』、『研修期間を長く設定してほしい』等の意見が寄せられました。



専門家による講義風景(SEM)



専門家による指導風景(SAT)



役割演習風景(SAT)

『J-Skills News』に関するお問合せ

SESPP事務局 (株式会社JTБ 霞が関事業部)

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階
TEL : +81-3-6737-9263 FAX : +81-3-6737-9266

担当 : 近藤・加藤・岩下

E-mail : sespp@jtb.com